



服薬簡素化のご紹介



理事長 兼 センター長 秋下 雅弘

当センターでは本年 6 月より「服薬簡素化キャンペーン」を開始しました。地域連携の会などですでお知らせはしていますが、入院中の処方変更に驚かれることもあるかもしれませんのでこの場をお借りしてこのキャンペーンの意図をお伝えしたいと存じます。

当センターでは以前からポリファーマシー対策に力を入れてきました。最近、ポリファーマシー対策の一つとして注目されているのが「服薬簡素化」です。

まずは処方見直し (medication review) により薬剤数を最小限にし、そのうえで可能な限り服薬回数を減らし、できれば 1 日 1 回にすることを目指します。

特に高齢者施設では、職員の多い昼 1 回にまとめることで、患者・施設双方にメリットがあるとされます (高齢者施設の服薬簡素化提言、日本老年薬学会)。服薬回数が多く、用法が複雑だと、患者の服薬負担、介護者の与薬負担、飲み忘れ、誤薬のリスクがいずれも増えます。

当センターのキャンペーンも薬剤関連のインシデント・アクシデントを防ぐために始まりました。

服薬簡素化は、高齢者の QOL を守り、現場の負担を軽減するために欠かせない取り組みです。医師・薬剤師のみならず、看護師を含む多職種で取り組んでまいります。どうかご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

服薬簡素化キャンペーン

高齢の患者さんは、薬も多くなり、副作用や飲み間違いなどのリスクも高まります。

当センターは、多職種が協働して、薬の見直し (服薬簡素化) に積極的に取り組みます。

1日1回で、暮らしが変わる

服薬の負担を減らすため

Before



After



服薬過誤を防ぐため

服薬回数：平均2.8回/人
(2025年3月退院処方調べ)

皆で手を取り合って
～薬も人生もシンプルに～



■ ポリファーマシー外来

総合内科・高齢診療科 部長 岩切 理歌



ポリファーマシー外来を受診する患者さんの多くは10剤以上内服しており、数が多いことを心配されています。患者さんには、生命維持や二次予防のために必要不可欠な薬と、症状緩和薬との2つのグループに分けながら、内服の理由について説明しています。必要性を理解していただくことで不安が払拭され、さらに減薬にも繋がります。また、転医に伴う薬の整理を目的としてご紹介いただくこともあります。

ポリファーマシー外来では診察時間を長めに設定し、薬の調整を行う場合は経過観察もさせていただいています。残薬の増加、減薬の希望、薬剤有害事象の可能性など、薬のことで気になる患者さんがおられましたら是非ご紹介下さい。

■ スタッフ紹介

■ 薬剤科

薬剤師は、医師や看護師など多職種と協力し、病棟では服薬の説明や副作用の確認、持参薬のチェックを行うことで、安全な治療を支えています。また、一包化やカレンダーを使った工夫、退院時の薬の整理や地域薬局との情報共有なども大切な役割です。さらに、がんや感染症、栄養といった専門分野にも関わり、病院を支える基盤業務も担っています。

高齢の方に対しては、リスクの高い薬の見直しや高齢者総合機能評価(CGA)に基づく薬の最適化、薬の数や回数を減らすなどの服薬簡素化、処方変更後のご本人やご家族への説明、などを通じて、安心して暮らせる医療を目指しています。



外来医師配置表はこちらよりご確認ください。

各種問い合わせ



- 医療連携係(直通) ☎ 03-3579-6963 (平日 9:00 ~ 17:00)
- 予約センター ☎ 03-3964-4890 (平日 9:00 ~ 17:00)
- 緊急受診・緊急入院のご相談 ☎ 03-3964-1141
※「緊急受診(入院)の依頼です。〇〇科の連携当番医につないでください」とお話しください。
- 脳卒中ホットライン ☎ 080-4116-1141 【医師直通】
※脳卒中の発症が疑われる場合にご活用下さい。
- 循環器ホットライン ☎ 03-3962-8325 【医師直通】
※急性冠症候群、弁膜症、心不全、不整脈、大動脈瘤、大動脈解離、急性動脈閉塞など緊急対応が必要な時、その他お困りの時は、いつでもご連絡下さい。
- 急性腹症外科ホットライン ☎ 03-3964-3260 (平日 9:00 ~ 17:00) 【医師直通】
※令和7年4月21日より電話番号変更
※虫垂炎、胆嚢炎、消化管穿孔、ヘルニア嵌頓、絞扼性腸閉塞などを疑う急な腹痛。診断がついていない状態でも構いません。